

## カンボジア王国の養殖現場を視察して

日本大学 生物資源科学部  
海洋生物資源科学科 3年  
辻あすみ

私は、大学で水産学を学んでいます。大学卒業後は、青年海外協力隊として、現地の方々  
と養殖を行い、現地の人への協力が出来ればと思っています。しかし、養殖は大学の講義  
のみで学んでおり、国内の養殖場も視察する機会はありませんでした。この度は、大学に  
OBの大内様がいらっしゃった際、協力隊のお話しや現在のカンボジアでの業務のお話しを  
伺い、実際に現場に行き現状を見ることの大切さを実感し、実施の養殖場、特に私が希望  
している途上国の養殖を見ることを決意しました。ただ、私にとって海外旅行は初めてだ  
ったので、旅券や査証の準備、航空券の手配、言語（クメール語及び英語）など多くの不  
安がありました。

日本から、韓国のソウルで乗り継ぎ、カンボジアの首都プノンペンにある国際空港に到  
着し、無事大内様、根崎様と合流しました。翌日より現地視察が始まり、カンボジアの国  
内線も利用し、タケオ州、カンポット州、カンボンソム州、シエムリアップ州を回りました。  
タケオ州とカンポット州では、インテムコンサルティング株式会社がJICAのプロジェクトとして実施した淡水養殖改善・普及プロジェクトが支援した種苗生産農家を訪ねまし  
た。彼らは、シルバーバルブやシルバーカーブ、ナイルティラピアなど複数種の種苗生産  
を行っていました。上記プロジェクトでは、養殖普及の方法として種苗生産農家を中心と  
した農民間研修を行い、対象州で、プロジェクト期間中、毎年1,000件以上の新規養殖農  
家が増えていたそうです。こちらでは、養殖にとって池の色が重要なこと、混養を行って  
いること、夜間はライトを点灯させることによって集まってきた虫を池に落とし餌として  
用いていることなど、途上国での養殖の実情や工夫を見ることが出来ました。その後は、  
カンボンソム州の海水魚養殖センター及びシエムリアップ州の淡水魚養殖センターを視察  
することが出来ました。

今回学んだことを踏まえて、これからは大学の座学だけでなく、現場での実習を通じて  
技術を身に付けたいと考えています。

本見学にあたり、インテムコンサルティング株式会社の大内様を始め、現地でお会いし  
た原様、根崎様、丹羽様には様々な場面でご指導を頂き、またサポートを受けました。そ  
してカンボジアの文化等に関するお話しも伺うことが出来、充実した4日間となりました。  
この場をお借りして御礼申し上げます。



養殖農家への質問



アンコールワットにて